

平成31(令和元)年度 学校自己評価表(結果)

学校運営方針		学校運営計画		
学校運営方針	生徒一人ひとりの適性に応じ、進路実現に向けて生徒の第一希望を確実にかなえるよう支援するとともに、学習・学校行事・課外活動への積極的参加を促すことにより、活気にあふれた学校づくりを進める。			
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標		
<p>&lt;成果&gt;</p> <p>①平成31年度入学生に向けた教育課程の変更を行った。</p> <p>②個別指導により、進学と就職の希望の進路実現を図った。</p> <p>③商業検定や実用英語検定は、個別指導により確実に合格者を出すことができた。</p> <p>④国公立大学は新潟大学1名を出し、4年連続で国公立大学合格者を出した。</p> <p>⑤吉田高校サポート協議会と連携し、模擬面接などの指導を受けることができた。</p> <p>⑥各教室のワックスがけなどを実施し、校内美化に努めた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>①家庭学習の習慣を定着させる工夫。</p> <p>②2年生のインターンシップ希望者を増加させる。</p> <p>③部活動加入率の増加と運動部、文化部の活動のさらなる活性化。</p> <p>④携帯電話の使用ルールについての指導の徹底。</p> <p>⑤きめ細かな情報交換など、保護者との連携の強化。</p> <p>⑥教職員の校内研修の充実。</p> <p>⑦地域との連携を図り、授業を工夫する。</p> <p>⑧転学者の減少。</p>	生徒の進路目標を明確にし、その指導方法の改善に努め、基礎学力の向上を図る。	学習習慣定着のための指導方法や教材の工夫を行う。		
		生徒一人一人の適性に応じたきめ細かな指導を行う。		
	地域・保護者と連携しながら、基本的な生活習慣と規範意識をきちんと身につけた生徒の育成に努める。	基本的な生活習慣を身に付け、いじめ防止基本方針に沿って、適切な対応をする。		
		ルール遵守の意識と責任感の養成を図る。		
	地域を知る活動を深めて、生徒の進路意識を高め、進学と就職の生徒の第一希望をかなる組織的な進路指導体制を確立する。	インターンシップや地域を知る活動をとおして、地元に貢献する意識を高める。		
		個別的進路相談を充実させ、生徒の進路実現を支援する。		
	集団生活における望ましい人間関係と適切な自己表現力の育成を図りながら、活気あふれる学校づくりを進める。	部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。		
生徒の指導に関する校内研修の充実を図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価
教務	円滑な学校運営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程を実践する上で効果的な行事計画や時間割の作成に努める。</li> <li>・考査や成績処理などがスムーズで確実に実施できるよう計画し、なおかつ問題点には早急に対応する。</li> </ul>		B A A
	地域や保護者との連携を図り、開かれた学校作りに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA専門部を中心に、地域や保護者の力を積極的に活用することで、教育内容の充実を図る。</li> <li>・学校案内の作成や中学生体験入学の実施などを通して、開かれた学校作りに努める。</li> <li>・中学生体験入学参加者の事後アンケートで「良かった」が8割以上をめざす。</li> </ul>		B A A
	進級率の向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期中に保護者面談の時間を確保し、問題点の早期発見と共有化により、生徒の学校生活への定着を図る。</li> <li>・成績不振者に対するサポートが十分に実施できるよう、校内での連携を図り、補習計画等を立案作成する。</li> <li>・進級率95%以上をめざす。</li> </ul>		A B B
生徒指導	目に見える指導を実践し、その情報を発信する。	朝の立哨・巡回指導を行い、遅刻の防止、挨拶の励行、望ましい身だしなみの定着を図る。		B
		服装頭髪やアルバイト・免許等について学校の指導方針の周知徹底を図る。		B
		「生徒指導通信」を年4回程度発行し生徒指導の方針への理解を促す。		B
	ルール遵守の意識と責任感の養成を図る。	携帯電話の校内での使用制限について、徹底するよう指導する。		B
薬物乱用防止講話を実施して、薬物汚染の怖さへの理解を深めさせる。		B		
免許保有者のバイク実技講習会への参加率を100%にする。		B		
		服装頭髪検査を年間5回実施するとともに、継続的に指導する。		B

評価項目	具体的目標	具体的方策		
保健指導	健康管理と環境の清潔維持を図る。	健康診断結果の活用や健康相談活動を通し、疾病治療と規則正しい生活習慣の確立を目指すとともに、生徒の抱える問題に対して個に応じた指導にあたる。	B	B
		校舎内外の清掃を徹底し、学習と生活両面の環境維持に努める。	B	
生徒会	部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。	体育祭と文化祭の内容充実に取り組みせ、生徒の参加意識の向上を図る。また、地域行事への参加により、人との触れあいや社会貢献の態度を育てる。	A	B
		全校集会等で各部活動の紹介・激励を積極的に行い、部活動への参加を促し、部室整備など部活動が実施しやすい環境作りを進める。	B	
進路指導	キャリア教育を推進し、学習意欲の向上につなげる。	『進路のしおり』を作成し、生徒の進路指導に有効活用を図る。	A	A
		進路ガイダンスを各学年、年間1～3回実施するとともに、内容を厳選し充実を図る。	B	
		進路情報室の資料・施設を一層充実させ、有効な利用方法の指導に努める。	A	
	個別の進路相談を充実させ、生徒が第一希望とする進路の実現を支援する。	進学補習・模試受験指導・推薦入試指導などを計画的に実施する。	A	
		進路・学年・保護者間で緊密な連携を保ちながら進路指導を行う。	B	
		企業研究・職場見学等を充実させ、就職希望者全員の進路実現を目指すとともに、一次合格率80%の内定を目指す。	A	
学年	基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける。 自らの進路目標をもち、その実現に向けて努力する。	(1年) 基本的な生活習慣の確立と進路を見据えた基礎学力の定着をめざす。	A	A
		(2年) マナーやルール、時間を守る事の意義をふまえ基本的な生活習慣を確立させる。朝学習と手帳の活用を継続し基礎学力の定着を図る。	B	
		(3年) 出席率の向上を図り、社会性を身につけさせる。学習習慣を確立させる。生徒全員の卒業ならびに進路実現を目指す。	A	
道徳・人権教育	様々な体験や思索の機会をとおり、人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるようにする。他者を尊重する人権感覚を身に付ける。	(道徳) 教科・科目において体験的な学習を重視するほか、就業体験やボランティア活動などに参加しやすい学校づくりを行う。	A	B
		(人権) 生徒及び教職員対象の人権教育、同和教育研修会を全校対象1回実施するほか、学年ごとに1回以上実施する。	B	
総合学習 探究学習	地域・社会・文化に関する総合的な学習及び自己の在り方生き方について考察する活動を通じて、自己の進路を主体的に探究し、地域・社会で抱える課題について解決策を考察するための資質・能力を育成する。	(1年) 校外研修や地域講演会等を行い地域理解を深めるとともに、進路に関わる主体的な活動を通じて自己の特性や興味を知る。	B	B
		(2年) 職場見学等校外での体験学習を通して将来についての考察を深め、進路実現に向けて意識の向上を目指す。	B	
		(3年) 小論文学習や面接練習、出願書類作成練習を繰り返し、全生徒の進路実現を目指す。	A	
文系理系コース	生徒の進路の応じて各種検定や模擬試験を積極的に活用するよう促すとともに、授業に加えて個別指導等を実施し実力をつける。	(国語) 年3回実施の漢字検定で、各回受検者10名以上をめざす。	B	B
		(地歴公民) 主権者として必要な一般教養を身に付けさせる。	B	
		(数学) 基礎事項の定着と応用力を演習を繰り返すことで身に付けさせる。	B	
		(理科) 問題演習や実験を多く取り入れ、授業内容の充実を図る。	A	
		(英語) 英検を積極的に受検するよう指導し、各回受検者数2桁をめざす。	C	
情報ビジネスコース	商業の各分野に関する基礎的な知識・技能を習得させ、職業人として必要な心構えを育成する。また、資格を活かして商業系大学への進学及び就職を目指す。	学習到達度をはかるために各種検定を受検させ、商業に関する基礎的な知識・技能を習得させる。検定合格率が100%になるよう指導する。	B	B
		ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ネットワーク管理などの実務に必要なソフトの活用能力を育成する。	A	
		社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。	B	
健康体育コース	幅広いスポーツの実践や理論の学習を通して、より高い技能及び知識の習得をはかる。また、健康・安全に関する基礎知識を学ぶ。	運動の楽しさを理解させ、生涯スポーツに取り組む姿勢を育成する。	A	B
		社会生活における健康・安全に関する基礎知識を習得させる。	B	
		社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。	B	
文化教養コース	社会人及び家庭人として必要な基礎的教養を習得させ、豊かな人間性を育成する。	実験・実習を6割以上入れて、実践的能力を育成する。	A	B
		社会・文化・環境についての関心と理解を深めさせる。	B	
		生活文化の継承と創造に必要な基礎的スキルを身に付けさせる。被服検定3級と食物調理検定3級の合格率100%を目指す。	B	
成果		・個別指導をおこなうことにより、進学と就職の希望の生徒のそれぞれの進路実現を図った。	総合評価	
		・就職希望に対する模擬面接は、「吉田高校サポート協議会」を連携し、地元企業の方からの協力が増加した。		
成果		・実用英語検定、家庭科技術検定、商業検定は、個別指導を行うことで、確実に合格者に出すことができた。	B	
		・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降は臨時休業となり、式典や次年度の準備は短縮化したが実施できた。		
		・「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」を活用し、授業を充実させる内容となった。		
		・インターンシップは、2年生17名で、昨年よりも参加人数が減少したが、勤労観・職業観を育成し、地域を知るよい効果が		
		・いじめ未然防止・早期発見に係る委員会を中心とした生徒の情報共有を図ることができた。		
		・いじめ事象の対応は迅速で組織的に対応することができた。		
		・スクールカウンセラーをいれた情報共有を行えるよう、今後は委員会の開催日を考慮したい。		
		・教員対象の特別支援教育講演会や生徒指導研修会を確実に実施できた。研修内容を次年度につなげる。		